



首都圏
自然歩道

関東ふれあいの道

栃木県

28 山あげ祭の里をめぐるみち 9.0km

このコースは国の重要無形民俗文化財にも指定され400余年の歴史と伝統を誇る山あげ祭の里、那須烏山をめぐるみち。

途中には山あげ会館、烏山城址などがあり、永い歴史と伝統、豊かな自然を満喫できる9.0kmのコースです。



踏破認定撮影ポイント



烏山城址 (案内標識)

関東ふれあいの道から本丸への分岐点に立っている案内標識を入れて撮影してください。



コース周辺の見所



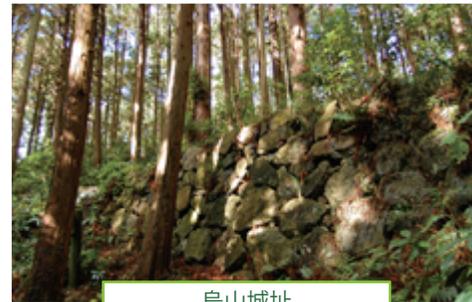
山あげ会館

山あげ祭を中心に那須烏山を紹介する白壁の武家蔵風の施設です。山あげ祭に使う屋台が2台展示されているほか、本物の5分の1のミニチュア屋台が祭りを再現し、1年中祭りの雰囲気を楽しめます。



山あげ祭

永禄3年(西暦1560年)当地方に疫病が流行し、その災禍を避けるため時の烏山城主那須資胤(すけたね)が牛頭天王(ごずてんのう)を八雲神社にお祀り、奉納余興として飾り屋台を出し、山あげを行うようになったのがはじまりです。全国でも類を見ない野外歌舞伎である山あげ祭は、6町内が年番で毎年7月の第4土曜日を含む金曜、土曜、日曜の3日間行われ、1日数回場所を変えて上演されます。主な出しものとして「将門」「戻り橋」「蛇姫様」「吉野山」「関の扉」などがあります。



烏山城址

烏山城は応永25年(西暦1417年)に那須資重(那須与一の子孫)が築城したと伝えられています。約88haの山城を成し、街から見えるその形状から別名臥牛城とも呼ばれています。曲輪、空堀、堀切の規模が大きだけでなく石垣、土塁などの遺構も良好に残されており、とても見応えのある城址です。



和紙会館

烏山和紙の起源は、奈良時代まで遡ることができ、以来、絶えることなく和紙が漉きつがれてきました。和紙会館では和紙製品の展示即売や和紙に関する資料を展示しています。また、烏山和紙会館の建物は、市の近代化遺産として位置づけられています。

問い合わせ

- 栃木県環境森林部自然環境課 自然公園担当
- 栃木県県北環境森林事務所 環境企画課
- 那須烏山市役所 商工観光課

〒320-8501 宇都宮市埴田1-1-20
TEL.028-623-3206

〒324-0056 大田原市中央1-9-9
TEL.0287-23-6363

〒321-0692 那須烏山市中央1-1-1
TEL.0287-83-1115